

会 議 録		令和6年9月25日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府宮津警察署協議会（令和6年度第2回）		
開催日	令和6年9月24日（火曜日）		
時 間	午後2時から午後3時40分までの間（100分）		
場 所	京都府宮津警察署 講堂		
出席者	青木会長、松田委員、佐々木委員、池野委員、中埜委員、中村委員、永濱委員 （欠席 矢野副会長、毛呂委員） 計7人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、 交通課長、警備係長、地域係長、広聴相談係長 計11人		
諮 問 事 項	1 災害装備資器材の展示 2 京都府警察・宮津警察署の災害対策について		
会 議 内 容	<p>1 署長挨拶 司会 副署長</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 協議 司会 会長</p> <p>(1) 諮問事項説明 災害装備資器材の展示～地域係長</p> <p>【委員】スローバッグ（溺れている人に対して、バッグに収納された沈まないフローティングロープを投てきし、ロープに捕まらせて救助する救助資機材）についてだが、これは駐在所や交番に配備されているのか。</p> <p>【警察】交番・駐在所というより、パトカー等、各車両に配備している。</p> <p>【委員】この資機材が配備されていることや、使用方法については知らなかったし、知らされていないなど感じた。</p> <p>見せていただいた各資機材が警察だけではなく、市役所や公民館などの行政施設にも配備され、その配備状況や使用方法を知ることができれば、水難等の災害救助に役立てられると感じた。</p> <p>【委員】これは市販されているのか。</p> <p>海や川に近い警察署だから配備されているのか。</p> <p>【警察】見ていただいたスローバッグについては登山メーカーが販売しているもので、強度に関しても信頼のおけるものであり、当然、一般の方でも購入することが可能で、全警察署に配備されている。</p> <p>(2) 諮問事項説明</p>		

京都府警察・宮津警察署の災害対策について～地域係長

【委員】 地域警察官の危険な災害現場における活動には感銘を受けている。

連日、石川県の豪雨災害のニュースが流れており、京都府警の警察官も出動されているのではないかと考えていた。

私は地元の自治会の役員を務めており、自治会内で組織する「自主防災会」というものが最近になって組織化された。

消防団の延長線上に「自衛消防隊」というものがあったが、宮津市の隊は解散し、「自主防災会」という組織が出来た。

以前の「自衛消防隊」の活動は消防活動がメインだったが、「自主防災会」では災害にも対応できるように自治会も動いてほしいと行政から説明を受けている。

指揮系統については消防団については消防団長であったが、自主防災会については自治会長が指揮を執ることになる。

自治会長は年配の方が多く、行政も自主防災会を一方的に組織するも、いざという時の指揮系統がうまくいくかの検証ができていない状態である。

私も長年消防団員として活動して災害時の土嚢づくりなど経験したが、毎年変わる自治会長が指揮を執って、うまくいくのか疑問であり、話し合いをしている最中である。

説明していただいた警察の緊急時の活動については参考になるため、是非地元の住人にも紹介したい。

是非、今回のようなお話を地域の会合等でお話していただきたいと思う。

【委員】 私の家も、山や川の近くに建っており、いつどんな災害に巻き込まれるかわからないため、非常食や水などを備えたいと思った。警察の資器材を見せてもらい、勉強になった。

避難場所等を再確認して、一人暮らしの高齢者に対する早めの声掛けにより、避難誘導できればと思う。

【委員】 伊根町は観光のお客が多く、自分の命を守るのも当然だが、まずは観光で来られたお客をどのように安全に避難誘導できるかといった事が問題となり、先日、専門家の方をお招きして必要な対策について話してもらった。

若狭湾内断層が近くにあり、マグニチュード 7.2 の地震が起こると伊根町には3メートルの津波が押し寄せるとのことで、その対応については様々な文献等で示されているが、まずは事業者向けに分かりやすい小冊子を作ろうということになった。

現在、いろいろな方からの意見を集めて作成している最中であり、大変参考になった。

特に外国人のお客が多いため、そのような方にも分かるような言語で作成したいと思う。

災害は、いつどのような形で発生するのか分からない。

石川県の豪雨災害があった先日も、自分が経営する舟屋づくりの旅館に強い風と雨が吹き込み、1階が浸水する被害に遭った。

普段の備えが必要という点で大変勉強になったし、言葉が通じにくい外国人のお客様をどのように避難誘導するかなどを整理して災害に備えたいと思う。

【委員】これまで災害については対岸の火事のように思っていたが、災害は身近に発生するものであることがよく分かった。災害が発生した第一線の現場での警察官の活動を紹介してもらい、頭の下がる思いである。

救助されて当たり前と思っはいけない。

各個人の災害への備えも重要であるということを再認識した。

【委員】私は伊根町の消防防災を担当する課に配属されて長くなるが、濃く記憶に残っている災害の1つが平成30年にあった「7月豪雨」で、伊根町が孤立してしまった。

この災害が発生したのが土曜・日曜の休日であり、災害対策本部へ行くと、職員が出勤できていないという状況だった。

宮津市内や与謝野町から出勤する職員が多く、伊根町に住んでいても休日だったので買い物等で外出して伊根町を離れていた職員も多くいたことから、道路が分断されて伊根町が孤立したときに職員が出勤できないといった状況になってしまった。

職員が少なく、対応に苦慮していたとき、駐在所の方には大変お世話になった。

少ない職員でどのように対応するかを考えるが、まずは消防団や住民の方、警察や消防と連携して対応することが大事である。

住民の方を避難させることが最優先であるが、伊根町には年間約38万人もの観光客が来られ、これまでにないほど外国人観光客が増加している。

そのような状況において、言葉の壁がある中、どのように避難誘導するかが問題である。

実際に災害が起こった際に備え、警察との連携によるスムーズな避難誘導・復旧活動に向けた協力関係の構築が必要と感じた。

【委員】宮津市には海も川も山もあるので、様々な災害が起こり得ると思いながら説明を聞かせていただいた。

私は子供を対象とした塾で働いており、震度6以上の地震が発生した際に活用できるように、日頃から、定められたルートで子供たちと一緒に安全に避難所に向かうなどの内容が盛り込まれたマニュアルを防災バッグ等に用意している。

また、同マニュアルには、避難行動の指針が定められているが、実際に災害があったときのイメージができていなかった。再度、避難ルートを確認して、安全が確保できるのかイメージしながら災害に備えたいと思った。

自宅で過ごしている時間に災害が発生したと想定して、家族と避難方法について考えたいと思う。

【委員】地域では公民館が避難場所として指定されているが、災害が起こりそうになり、避難指示が出ても、なかなか避難してくれない高齢者の方も多。自

分で移動できない方も多いのが現状であり、今回のお話を参考に災害に備えたいと思う。

(3)その他

【委員】私が住む場所も傘松公園の近くにあり、観光地のため外国人観光客の方が多く往来している。

中国、韓国、台湾、香港の方をはじめ、アメリカ、ヨーロッパから来られた方もいる。

ある日、外国人観光客の方が押しボタン信号で立ち止まって横断歩道を渡れずにいるといった光景を見た。

私が押しボタンを押して横断歩道を渡ってもらったが、信号機に外国語の表記がなかったため、ボタンを押せずにいたのだと思う。

新聞を見ていると京都市内のどこかで、押しボタン信号に外国語で表記されたステッカーを貼っているとの記事を見た。

宮津市や与謝野町管内に何箇所かの押しボタン式信号が設置されており、今後どのような対策を行う予定なのかを教えていただきたい。

【警察】押しボタン信号の数については、今、お答えはできないが、外国人の方にも理解しやすい表示が記載されたステッカーを貼るように対応を行っていく予定である。

結果については次回の警察署協議会でお話させていただく。

【委員】交通機動隊員が自転車に乗車して取締り等を行う「Be-Unit」について大変興味深く思った。

小学生4年生の息子が自転車に乗っている際、車と接触する交通事故に遭い、ヘルメットをかぶっていた事もあって、大したけがをしなくて済んだ。

自転車乗車時にヘルメットを被ることの重要性を痛感する出来事であったが、中学生・高校生になるとヘルメットをかぶることが格好が悪いと感じている子供も多いと思う。

「Be-Unit」のように視覚的にも見栄えが良く、格好がいい部隊の広報活動は、ヘルメット普及につながるのではないかと思う。

4 事務連絡

令和6年度第3回京都府宮津警察署協議会は12月初旬に開催予定である。

以上

会 議
内 容

第2回京都府宮津警察署協議会の開催状況

